

第19章 5. 世界恐慌の衝撃 e. ナチス政権 (p309~311)

① 1920 [1]ら[2] (ナチス) 党を結成
 反共産主義・反資本主義・反[3] 条約・反ワイマール憲法を主張
 ↓
 1923 [4] に失敗→以後、議会での多数の獲得→合法的権力掌握をめざす。
 → 1925 年以後は勢力は頭打ちに。

ヒトラーのめざしたもの 5 _____

② 1929 世界恐慌の発生→アメリカ資本の撤退→失業者の増大・社会不安と不満の拡大
 →[6] 党勢力の伸長←→資本家らの恐怖
 ↓

③ 1933 ヒンデンブルク大統領、ヒトラーを首相に任命
 1933 [7] 事件をきっかけに共産党を弾圧→議会で過半数を獲得
 ↓

④ [8] 法可決=政府に立法権をゆだね、議会を停止
 政党・団体の非合法化→一党独裁体制の確立、ヒトラー [9] に
 →[10] 共和国の崩壊、[11] の成立

⑤ ヒトラーの内政
 ア) 軍需産業や土木事業などの拡大→失業者の減少・景気回復
 イ) 国民生活の統制・言論・思想弾圧の強化、とくに [12] 人弾圧
 →親衛隊 (SS)、突撃隊 (SA)、ゲシュタポ (秘密警察) など

⑥ ヒトラーの外交=[13] 体制の破壊をすすめる
 1933 [14] 脱退、ザール併合

1935 [15] 宣言、義務兵役制復活

1936 非武装地帯の[16] へ進駐→ロカルノ条約破棄

f、人民戦線の展開とスペイン内乱 (p295、p303、p310~11)

① コミンテルン… 1930 代初期=社会民主主義敵論を唱える
 ↓ファシズムの台頭
 1935 [17] 論を主張
 →あらゆる反ファシズム=民主主義勢力との協力をはかる→各国共産党の政策転換へ

② フランス… 1934 右翼勢力の台頭→左翼勢力の危機感増大
 ↓

1935 仏ソ相互援助条約

1936 ブルム [18] 内閣 (社会党・急進社会党+共産党) の成立

③ スペイン… 1931 王政の崩壊→以後、大地主・カトリック勢力と農民勢力などの対立
 ↓

1936 選挙で左翼連立による [19] 内閣成立

大地主・カトリック勢力・大資本家などの右派勢力の反発
 → [20] 将軍の反乱 (←ドイツ・イタリア・ポルトガルの支持・協力)
 ↓ 右派政権 (~ 1984)

[21] の勃発=英仏の不干渉政策、
 ソ連・国際義勇軍の参加 ([22] やマルローら参加)
 ↓ ドイツ軍による [23] への無差別爆撃の実施 (=ピカソの画で有名)

1939 フランコ、ファシズム政権の成立
 → [24] 年のフランコの死まで続く→以後、王政復活=民主的君主制へ
 (p341)

4. 第2次世界大戦 a. 第二次世界大戦の勃発

① 1936 ドイツ=イタリア枢軸の結成→ [25] 内戦に介入

1936 [26] 協定→ 1937 日独伊三国防共協定締結

1940 [27] 締結

② 1938 ドイツ [28] を併合
 →チェコの [29] 地方の併合をめざす

③ 1938 [30] 会議
 英、仏はドイツの反共主義に期待しチェコ侵略を容認= [31] 主義をとる
 ↓

④ ソ連の不信→ 1939,8 [32] 条約を締結
 +あわせて秘密議定書=東欧の勢力圏を決める、締結

④ [33] 年9月1日ドイツ軍ポーランドへ侵入=第2次世界大戦勃発